（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令　和　７年度　学校自己評価システムシート（埼玉県立幸手桜高等学校）

E

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	夢を語る学校・・・・・・・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・・・・・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校

重　点　目　標	1　基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2　本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3　計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望を実現させる。 4　規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

出席者　学校関係者　２名
生徒　３名
事務局(教職員)　８名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　２月　１日　現在）			実施日　令和８年２月２日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	〔現状〕 今年度は、全年次で一人一台端末を実施する。昨年度の振り返りをいかし、端末を活用することで更なる生徒の学力向上に繋げたい。 教員の授業改善への取組は昨年度と比較すると全年次で向上した。 昨年度は大学入学共通テストの受検者が2人となった。今年度も更なる増加を目指し、大学進学への門戸を広げていきたい。 〔課題〕 ・一人一台端末の導入による、一人一人の習熟度にあった個別最適化の学びの展開を実現する。 ・生徒のICT活用能力を高める。 ・授業改善の取り組みをさらに進める。 ・「学習指導の満足度」が下がっている。 ・上位層の更なる学力向上への支援と、下位層へのフォローアップを充実させる。 ・各系列・各系統の特色を生かした進路実現を図る。 ・進路が決まると成績が下がり欠点を取ってしまう生徒が出てくる。	○基礎学力の定着と授業改善を推進し、生徒の学力向上を図る。 ○各教員が自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や学力向上のための具体的な授業改善策を明示して取り組む。 ○育成したい資質・能力、スクールポリシー、評価の観点を周知する。 ○ＩＣＴを効果的に活用した授業に取り組む。	①各年次による巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、規律ある学習環境を確保する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業によるきめ細かな学習指導により学力向上を図る。 ③授業公開週間を活用し、教員相互の授業改善を図る。 ④タブレット端末や、プロジェクタを活用し、生徒の興味や関心を高める授業づくりを推進する。 ⑤一人一台端末の活用により、授業改善及び深い学びへの実現を図る。 ⑥各年次が主体となり朝学習の質を高める。 ⑦全校において、ＩＣＴ教材すらら を活用して朝学習の質を高める。 ⑧長期休業中を中心にして、各教科による進学補講、資格取得に向けた補習を充実する。 ⑨各所がスクールポリシーの実現を図る。 ⑩各教科で評価の観点を明確にし、３観点を適切に評価する。	①②③④⑤⑥⑦⑩学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑥成績優良者は増加したか。 ②⑧成績不振者は減少したか。 ②④⑥⑧生徒が進路実現をしたか。 ④⑤授業改善の取組が推進されたか。 ⑧進学補講や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑨⑩各分掌のシートで振り返りをさせたか。 ⑩学習評価が生徒の学習意欲の向上につながったか。	①②③④⑤⑥学習指導による満足度　73.4% ①②④⑥成績優良者　2学期 69人→ 68人 ①②④⑥成績不振者　2学期 78人→ 84人 ②④⑤⑥⑧大学入学共通テストの受検者2人→4人。大学進学率は5.8%→8.7%。（12月24日現在） ③⑤先生が授業改善の取組をしているか。81.5% ③県教委主催の授業研究支援訪問を実施。4名の教員が研究授業を行い、研究協議にて指導・助言をもらった。教科横断型授業の研究授業を実施し、他校の見学者と研究協議を行った。川越女子高校、和光国際高校を訪問し、授業視察と研究協議を行った。 ⑤一人一台端末が授業で適切に活用されていると思うか。84.9% ⑤一人一台端末の導入により一人一人の習熟度にあった学びが展開されていると思うか。80.6% ⑧進学補講や資格取得への補習の満足度。92.1% ⑨⑩各分掌で今年度の振り返りを行い、来年度への課題・目標を共有した。（1月） ⑩学習評価が学習意欲の向上につながった。84.4%	B	全ての年次で一人一台端末を実施しており、特に朝学習において個別最適化の学習ができている。教員の働き方改革にもつながるので、ICTを活用した授業やアンケートフォームの活用、学習支援アプリ等の使用法について、引き続き校内研修を行っていく必要がある。 教員の授業改善への取組をさらに進めていく必要がある。校内において授業を見学し合い、研究協議を行うことや、他校の授業を見に行く機会を作っていきたい。 大学入学共通テストの受検者が4人となった。高大連携、進路体験授業、分野別ガイダンス等を活用して大学進学への門戸を広げていきたい。	生徒の学力向上のために、タブレットも含めたICTの活用も積極的に行っている。学力層に幅があることから、個別最適化にICTを活用すべきである。ICTと個別指導、ICTと紙などを使った指導のバランスを適切にとってほしい。また、既習事項の復習もしながら授業を進めることで、効果的な指導ができるのではないかと考える。また、教員の授業改善に向けた取り組みを、校内外で積極的に行っている。 多くの場面で効果的な新規施策を行っており、引き続き生徒の学力向上のために取り組んでもらいたい。
2	〔現状〕 学校見学会、学校説明会、入試説明会、北葛地域連絡協議会、幸手駅ステーションギャラリー、商工会と連携した授業や部活動の取組等を通して本校の取組をアピールしてきた。徐々にではあるが、地域に本校の取組が理解されてきている。 〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、ホームページや公式SNSを使って積極的に中学生や保護者、県民に発信すること。 ・学校説明会のより効果的な時期、内容を検討する。 ・「幸手桜で頑張っていきたい」と思っている生徒の数を増やしていく。 ・地域、商工会、大学等との連携を更に深めていくこと。	○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実を図る。 ○本校を第１志望とする受検生への丁寧な対応と、積極的な生徒募集活動を展開し、本校志願倍率1.05倍を目指す。	①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に中学校訪問や学校説明会等において、学校の特色や系列、そして進路状況等を強調して説明し、具体的な情報発信を行う。 ③ＨＰ更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による小学校・中学校・地域との交流を実施する。 ⑥地域の中学校との情報交換の場を活用し、積極的な生徒募集を進める。 ⑦学校説明会・入試説明会等で本校の取組や方針を説明する。	①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②⑥⑦本校志願倍率が1.05倍を超えたか。 ③ＨＰの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織（年次・分掌・部活動等）で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動（文化祭・市民祭りの参加）ができたか。 ④⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。	①大成建設次世代技術研究所にて自然共生ワークショップ（幸手市共催）に参加し、幸手市長、大成建設社員と意見交換を行った。幸手市文化祭、地域清掃に参加し本校の活動を地域に発信した。 ②各説明会の開催時期を変更。学校説明会（8、10月）、入試説明会（11, 12, 1月）塾対象者説明会（【新規】10月）、中学1, 2年生向け説明会（【新規】3月実施予定）在校生、教員による中学校訪問（年3回） ②③⑥⑦本校志願倍率0.54→0.66（10月1日現在）0.58→0.72（12月15日現在） 学力検査出願倍率0.82→0.91 ②③校内でHP、SNSの投稿方法の研修を実施し、SNS等での情報発信を行っている（4月） ①④⑤⑥九都県市合同防災訓練にボランティア生徒7名が参加（9月）。幸手市民まつりに参加し、ボランティア生徒87名が活躍。（10月）	A	学校見学会、学校説明会、入試説明会等で授業や部活動の取組等本校の良さをアピールしてきた。SNSやHPでの発信も回数を増やしている。本年度初めて、塾対象者向け説明会も実施した。彩の国進学フェアなどの外部団体主催の説明会でも昨年よりも多くの相談があった（110→162組）。「幸手桜でしっかりと頑張りたい」という生徒を増やしていきたい。 社会に出てから活躍できる生徒の育成が必要である。県教委主催の探究活動成果発表会、幸手市民まつりでのボランティア活動等に多くの生徒が参加できる体制の構築が求められる。	・生徒募集に関しても、日程の変更や塾対象者の説明会などを新規で実施し、生徒募集に力を入れ、昨年よりも参加者数が増えている。また、生徒が校内外で様々体験をできる機会を創出している。幸手桜高校には非常に魅力的なコンテンツが多くあり、中学生や保護者へそれらがさらに伝わっていくことを期待する。地域の中学生数減等、様々な理由が考えられるとは思うが、募集定員確保にさらに務めてもらいたい
3	〔現状〕 進路指導に関する満足度が３年次において上昇した。進路指導・年次団を中心としたキャリア教育が生徒に浸透してきている証拠であると思われる。今年度もインターンシップ等のキャリア教育を充実させ、更なる進学実績、就職実績を伸ばしていきたい。 〔課題〕 ・進路指導に関する満足度が２年次は低い。 ・インターンシップ等の教育活動により、将来の職業観や就業意欲を高める指導の充実を進めること。 ・進路行事を充実させ、明確な目標設定や資格取得を生徒に定着させる。 ・進路指導満足度を全年次で80%以上にする。	○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。 ○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。 ○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。	①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、３年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリング的面談を繰り返し行い、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。	①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ベクトルをあわせ進路指導を行い、進路実現を果たしたか。	①②③④⑤進路指導に関する内容の満足度89.2% ①②③④⑤進路決定率100% ②共栄大学と連携した体験学習会に132名の生徒が参加した。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できた。これによる生徒の社会観、職業観が高まった割合。85.4% ④61社の協力のもとインターンシップを実施した。 ⑤三者面談等で生徒・担任・保護者で話し合い、進路の決定を行った。その結果、就職希望者の中で辞退者が出ることなく、就職内定率が100%となった。	B	本校の進路指導に関する満足度は高く、計画的な指導が生徒の意識向上に繋がっている。高大連携、インターンシップ等の学校行事を活用し生徒の進路意識を高めていきたい。 就職内定率は100%であるが、自ら就職先を決められない生徒がいたり、卒業が目標である生徒がいたりした。キャリア教育等を通じ自覚を持たせていきたい。	・アンケートから生徒保護者の進路指導に対する満足度が高く、就職や進学についても進路実現がなされている。共栄大学と連携した体験学習会も行われている。「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」において引き続きキャリア教育の指導をお願いしたい。
4	〔現状〕 生徒指導案件は、昨年はSNSにより発覚した件数が多かった。SNSの使い方の指導を今後も継続して指導していく必要性がある。 昨年度、平日のスマホ使用時間が2時間以上の者、1年次87.5%、2年次90.1%、3年次94.7%。休日のスマホ使用時間が7時間以上の者、1年次30.3%、2年次35.6%、3年次28.7%という結果があった。3年次になると辛うじて使用時間が減る傾向にある。事件・事故等に繋がらないよう十分な指導をしていく必要がある。 昨年度は1.00倍を超えることができなかった。生徒に幸手桜への帰属意識を高めさせ、更なる志願倍率の向上に努めたい。 〔課題〕 ・ＳＮＳの正しい使い方の指導を充実させる。 ・スマートフォンの使用時間が長過ぎる。 ・「幸手桜で頑張りたい」という強い気持ちを持つ生徒たちを核にして、学校の教育活動の更なる活性化を図る。 ・生徒の幸手桜への帰属意識を高めさせる。 ・校内と校外での生徒の身だしなみが違うときがある。 ・自転車通学者のヘルメット着用率向上に努める。 ・交通事故の件数の減少に努める。（R6:4件）	○規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着に向けた取組を通じて、生徒の自己管理能力を育み、主体的な学校生活づくりを進める。 ○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。 ○挨拶の励行と、地域連携事業やボランティア活動を通して人間性豊かな生徒を育成する。	①始業式、終業式、ＬＨＲ等を利用して生徒指導部を中心にＳＮＳの使い方について指導する。 ②基本的生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。特に、ＳＮＳが起因する生徒間トラブルを防止するため、重点的に指導を行う。 ③生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、ＰＴＡと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ④教育相談員、ＳＳＷ、ＳＣを活用し、カウンセリングマインドを重視した生徒指導を充実させる。 ⑤成果や結果については報道機関や県教委公式SNSへの積極的な情報提供を行う。 ⑥部活動で中心的な役割を果たす生徒たちへの帰属意識高揚を図るための激励会を開催する。 ⑦教員が生徒へ積極的に挨拶をする。 ⑧地域の方とのふれあいやボランティア活動を通じた人格形成を図る。 ⑨校長や各主任の講話等で成年年齢引き下げについての情報提供を行う。 ⑩教務部を中心に、皆勤奨励する取組を実施する。	①②生徒指導件数が減少するに至ったか。ＳＮＳが原因・関係する生徒間トラブルが減少したか。 ②③学校自己評価アンケートで、基本的生活習慣及び学習に関する内容の達成状況が向上したか。 ④転退学者数は減少に至ったか。 ⑤⑥３年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。 ⑦生徒の挨拶が定着したか。 ⑧人間性豊かな人格形成が図れたか。 ⑨学校自己評価アンケートで成年年齢引き下げへの理解が深まったか。 ⑩皆勤者数を増やすことができたか。	①生徒指導件数　28件 ITトラブル、器物破損、喫煙等があった。 ②③遅刻・欠席をしないで登校しているか。92.8%　授業に積極的に取り組んでいるか。97.4% 授業の予習・復習に取り組んでいるか。53.7% ④転退学者数　22名→19名（2月27日現在） ⑤演劇部の取材等を複数受けた ⑥文化祭、体育祭等の学校行事において各部活動の生徒が中心になり学校行事を成功させることができた。 ⑦生徒の挨拶の定着率　94.7%　正しい言葉づかいができているか。95.4% ⑧学習活動、学校行事、ボランティア活動など様々な教育活動を通じて生徒の人格形成に尽力した。 ⑨学校生活で成年年齢引き下げへの理解は深まったか。　81.8% ⑩皆勤者数 1学期41.7%(210名)→35.8%(186名) 2学期27.5%(133名)→22.5%(115名) 本校に入学してよかったですか（生徒）87.8% 本校に入学させてよかったですか（保護者）93.4%	B	生徒指導件数がやや増えている。生徒同士の良好な関係性を築き、維持できる力の育成が課題である。 平日のスマホ使用時間が2時間以上の生徒 90.1%、平日のスマホ使用時間が7時間以上の生徒18.9%、休日のスマホ使用時間が7時間以上の生徒 37.9%、平日の家庭での学習時間が1時間以内の生徒 69.8% 休日の家庭での学習時間が1時間以内の生徒 68.8%であった。家庭での学習時間が少なくスマホを多く使用している。学習時間の確保を促していくとともに、スマホの適切な利用について携帯安全教室等を活用して指導していく必要がある。 生徒・保護者からの本校に入学「して」、「させて」よかったですかという問に対し、前向きな結果が出ている。この結果に満足することなく生徒に幸手桜への帰属意識を高めさせるよう務めていきたい。	・家庭学習時間確保やスマホ使用時間の増加が問題であると説明があったが、特に情報倫理（特にSNSの使用等）について、「スマホの先には世界がある」「閉ざされたSNSアカウントでさえもスクリーンショットによって拡散する可能性がある」等をきちんと理解させていくため、様々な方法で粘り強く指導していく必要がある。 ・ポロシャツの導入検討状況や、通学靴の規定について理解をした。引き続き生徒の実態に即した指導もお願いしたい。